

令和6年度学校評価

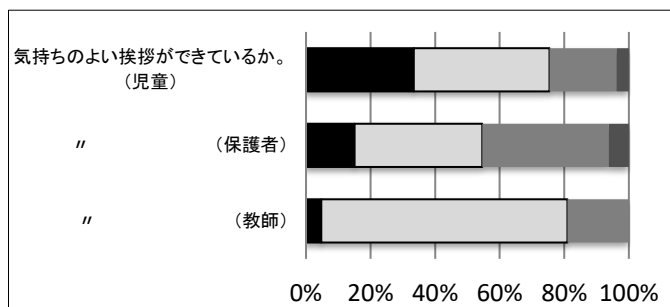
砥部町立麻生小学校

※ 肯定度：「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答した割合

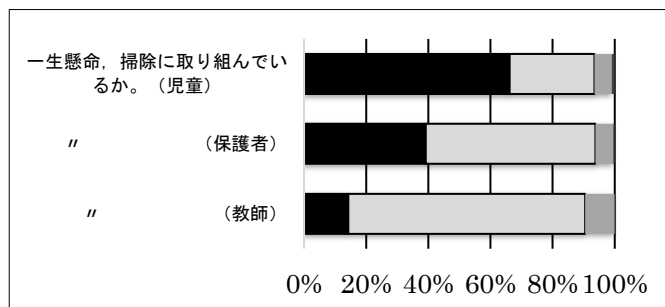
■あてはまる ■おおむねあてはまる ■少しあてはまる ■あてはまらない ■無回答

<豊かな心の育成に関すること>

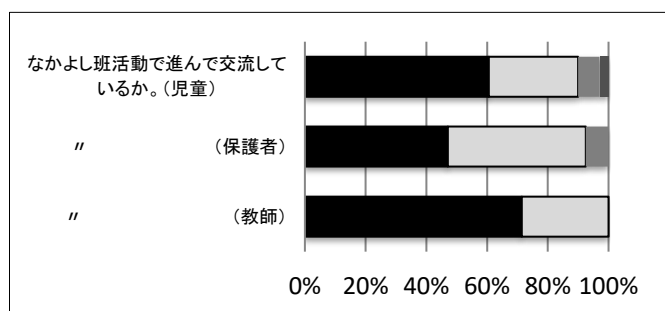
設問1 肯定度/児童75%、保護者55%、教師81%



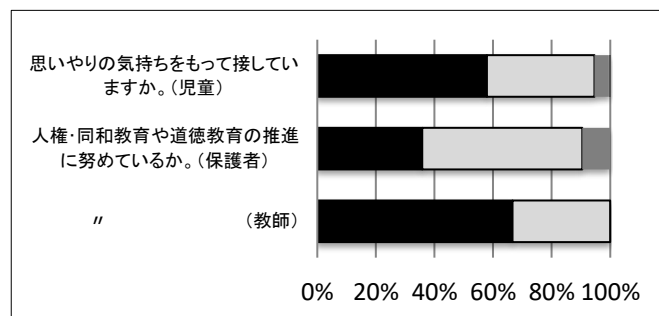
設問2 肯定度/児童93%、保護者94%、教師90%



設問3 肯定度/児童90%、保護者93%、教師100%



設問4 肯定度/児童95%、保護者90%、教師100%



考察

挨拶は関係構築の基礎となるものなので、気持ちのよい挨拶ができる児童を育てることは重要です。また、全ての児童が主体的にできるというのが理想ですが、御指摘のとおり、十分できているとは言えない状況です。

学校の取組としては、JRC週間等において児童主体の「あいさつ運動」を実施しています。また、運営委員会による「あいさつチャレンジ」など、様々な取組を行い、改善に努めてきました。また、「今月の目標」においても挨拶について多く設定し、全校で取り組みました。「気持ちのよい挨拶をしよう」「相手の目を見て挨拶をしよう」「自分から先に挨拶をしよう」など、具体的な視点も入れながら取り組んでいます。これからも根気強く継続して指導していくことが大切だと考えています。

挨拶は、学校だけでなく家庭での習慣づくりも必要です。家庭や地域社会と連携しながら、いつでも、どこでも、だれにでも気持ちよく挨拶のできる児童を引き続き育てていきたいと考えております。

児童が健康で安全な学校生活を送るためには、清掃活動を通して環境を整えることがとても重要です。本校では、「心と体でそうじ」を合言葉に、自分たちの学校は自分たちできれいにするという気持ちを持って清掃活動に取り組んできました。また、なかよし班で清掃活動を行っており、異年齢の友達と協力して行うことを大切に活動してきました。2学期には、「そうじ交代集会」でビデオ放送をし、掃除の仕方や決まりを確認する清掃指導を行いました。また、「そうじびかびか賞」を毎学期実施し、掃除を頑張っている児童を賞賛する機会を設けるなど、掃除への意欲を高める取組も行っています。その結果、昨年度に比べ、一生懸命、清掃活動に取り組む児童が増えています。しかし、中には、清掃活動に真剣に取り組めていない児童もいます。なかよし班で清掃しているよさを生かし、高学年が模範となり、低学年に進んで声掛けができるようにしていきたいと思っております。今後も継続して、黙々と一生懸命掃除ができるように指導していきます。

今年度も、学校行事や児童会活動などを全校児童が集まったり、保護者を招待したりして実施できました。その中で、児童が互いのよさや個性を認め合い、支え合う仲間意識を育めるように取り組んでいます。また、1年生から6年生までの異学年で編成した異年齢集団活動にも力を入れております。普段から清掃活動で交流をしたり、月に1回あるなかよしタイムで一緒に遊んだり、2学期にはウォークラリー遠足をするなど、様々な活動を通して、異年齢の友達との関わり方や、協力して活動する態度などを学んでいます。特

に高学年がリーダーとして引っ張る姿や下学年に優しく教える姿は、下学年のよき模範となり、代々、児童に受け継がれています。また、普段の交流を通して仲良くなった異年齢の友達と昼休みに一緒に遊ぶ姿などもみられます。

学校としては、思いやりのある心を育てる教育の一環として、今後も継続して異年齢集団活動や交流の充実を図っていきます。

児童の人権問題は重要な課題であり、中でも「いじめ」等の問題は依然として大きな社会問題になっています。その解決のためには、児童が個性を認め合い、助け合ったり支え合ったりするなど仲間意識を育てていくことや、人権尊重の意識を高めていくことが重要です。

本校の取組としては、人権ポスターや人権標語の作成を行っています。作成したポスターや標語は校内に掲示し、人権意識の高揚を図りました。11月には人権・同和教育参観日を設定し、道徳科や特別活動を中心に参観授業を行いました。12月には、人権委員会の児童が劇を通して仲間について考える人権集会を行いました。仲間外れにされたらどんな気持ちになるのか考え、友達と話し合うことを通して、いじめを許さない気持ちを養ったり、差別の現実を知り、誰に対しても差別することなく行動しようとする心情を育んだりするなど、各学年の発達段階に応じて指導を行いました。

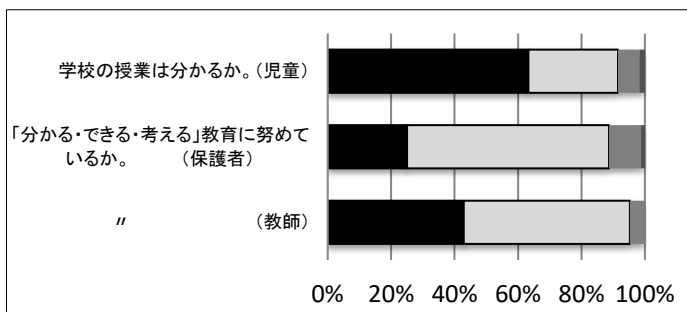
また、人権・同和教育は教育活動全体を通して行われるものです。普段の学校生活の中でも、友達同士のささいなトラブルから、乱暴な言葉を使ってしまう場面が時々見られます。そのような機会を捉えて指導を行い、他者を思いやり、一人一人を尊重できる心豊かな麻生っ子の育成に今後も努めていきます。

学校運営協議会委員の所見

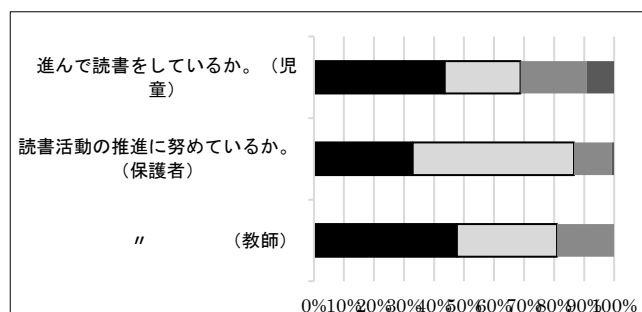
- 関わりが増えてきたことで互いに挨拶をしやすくなっている。
- いつ学校に来校しても清掃ができていてきれいに整っている。

<学習指導の充実に関すること>

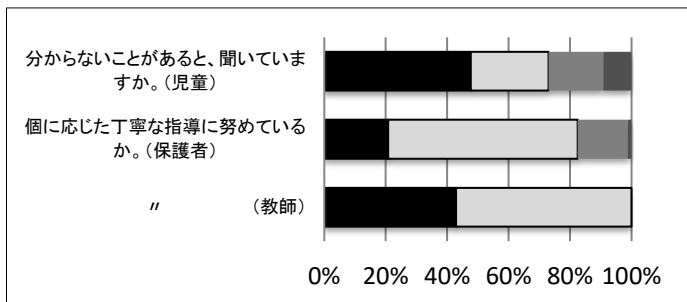
設問5 肯定度／児童 91%、保護者 89%、教師 95%



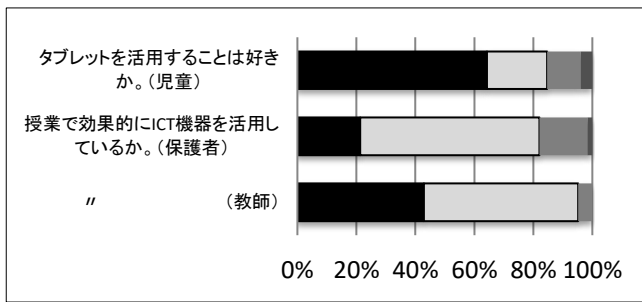
設問6 肯定度／児童 73%、保護者 76%、教師 95%



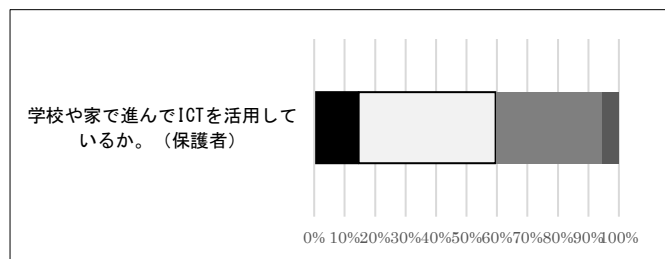
設問7 肯定度／児童 73%、保護者 83%、教師 100%



設問8-1 肯定度／児童 85%、保護者 82%、教師 95%

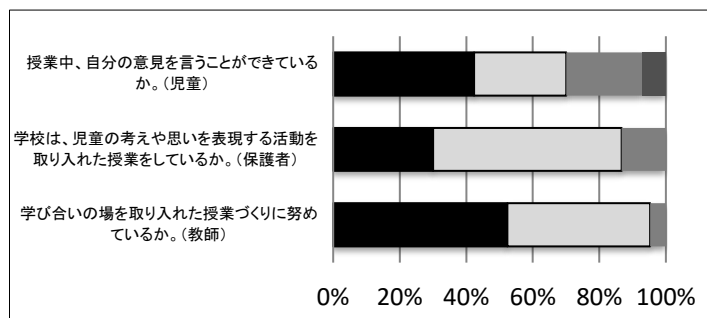


設問8-2 肯定度／保護者 60%

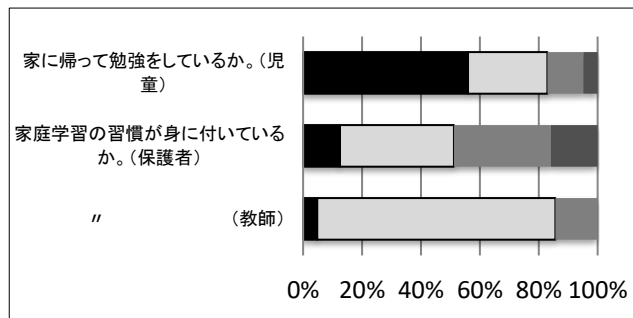


麻生っ子スマイルトーク

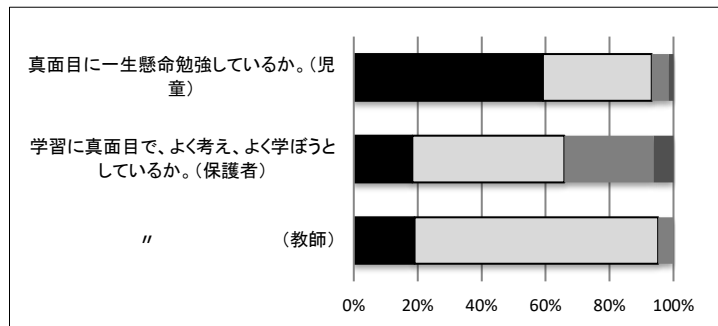
設問9 肯定度／児童 70%、保護者 87%、教師 95%



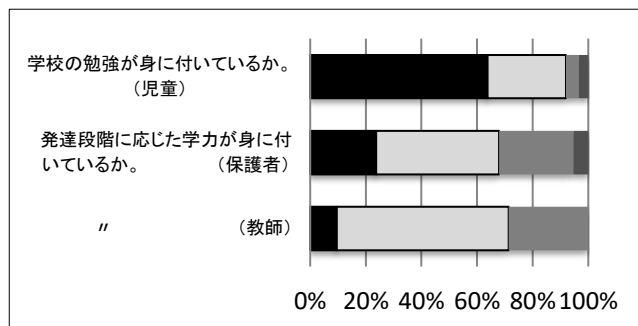
設問10 肯定度／児童 83%、保護者 51%、教師 86%



設問11 肯定度／児童 93%、保護者 66%、教師 95%



設問12 肯定度／児童 92%、保護者 68%、教師 71%



考察

「わかる・できる・考える」教育を目指し、授業改善をしながら授業に取り組んでいます。授業では、主体的・対話的な学びを大切にしています。毎時間「めあて」を提示し、何を学ぶのかを意識して学習課題に取り組めるようにしています。また、授業の終末では、何を学んだのか分かったことや考えたことを振り返る活動を行い、学習の積み重ねを大切にしています。そして、個々の考えや思いを表現できるような活動として「麻生っ子スマイルトーク」を設定するなどの工夫を行い、互いの考えを交流できるようにしています。さらに、「学び合い」が深まるように、考えを表現しやすい場の設定を考え、学び合い、高め合えるような指導を続けたいと思います。今後も、児童一人一人の学習状況や理解度を把握し、個に応じた指導ができるように配慮していきます。

児童に発達段階に応じた学力が身に付いているか、家庭学習の習慣が身に付いているかという点では、保護者の評価が低い値になっています。学校の取組として、自学メニューを活用し、家庭学習の質の向上と習慣化を図ったり、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るために、もじのけいこ、ドリル、タブレット等を使った継続的な指導に努めたりしています。また、読解力を育成する上で鍵となる読書活動については、図書委員会が中心となって「福ブック袋」等のイベントを定期的で開催するなどして、読書の推進を行っています。

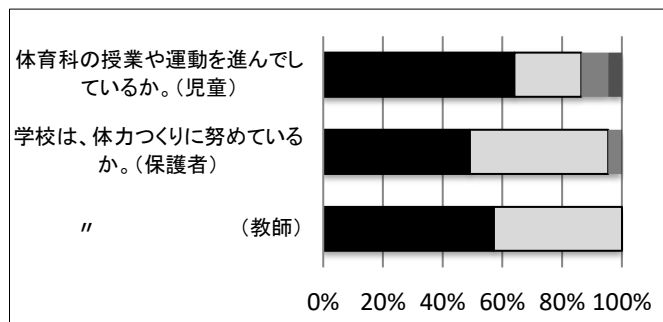
学力は、一朝一夕で身に付くものではありません。日々の継続が成果へとつながります。児童が継続して努力できるよう、家庭と学校が連携しながら共に支え、自分の力を伸ばすことができるように、これからも御協力よろしくお願いします。

授業におけるタブレット端末の活用や毎週のタブレットタイムを通して、児童のタブレット端末を使う技能が身に付いてきています。デジタル教科書も導入されており、授業の中で教員も児童もICT機器を活用する機会が増えています。

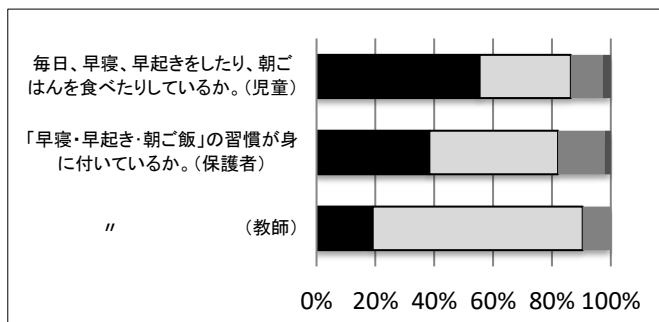
家庭でのタブレット活用については、学年によって持ち帰りの頻度や学習内容が様々です。各学年間での情報共有に努め、家庭でのタブレット活用の充実を図れるようにしていきたいと思います。また、児童が適切にICT機器を活用できるように、タブレット端末使用上のルール of 徹底や情報モラル教育の充実にも努めていきたいと思います。

<健やかな体と強い心の育成に関すること>

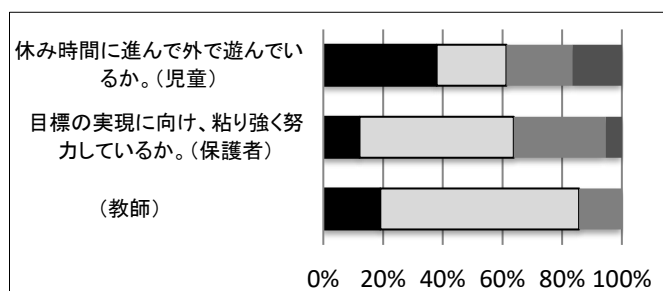
設問 13 肯定度／児童 86%、保護者 95%、教師 100%



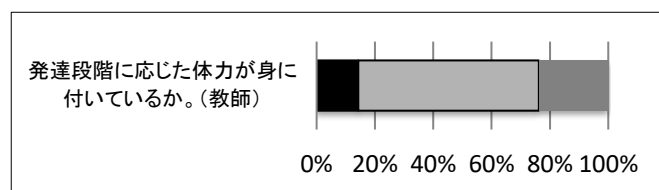
設問 14 肯定度／児童 86%、保護者 82%、教師 90%



設問 15-1 肯定度／児童 61%、保護者 64%、教師 86%



設問 15-2 肯定度／教師 76%



考察

体力づくりにおいて、児童・保護者・教職員ともに肯定的な評価を得ています。また、本校の令和6年度の5年生の新体力テストの結果を考察すると、男女ともに上体起こしや反復横跳びなどの項目で全国平均を上回っています。長く続いてきたコロナ禍の生活も、少しずつもとの生活を取り戻してきたことで運動の機会も増えてきているのではないのでしょうか。一昨年度より家庭でも継続して運動をしてもらうため、毎月「おうちで体力アップカード」を配布しています。また今年度からは、外遊びの機会を増やす目的で「チャレンジシート」を作成し、校内に掲示しました。体力アップカードやチャレンジシートの内容を授業の始めに学級全体で取り組むなどして、児童の運動に対する意欲の向上を図っています。小学校の時期は、様々な運動の技能を身に付ける貴重な時期です。多様な運動を経験する機会をもちつつ、運動量を確保するという点でさらに授業改善にも努めていきます。

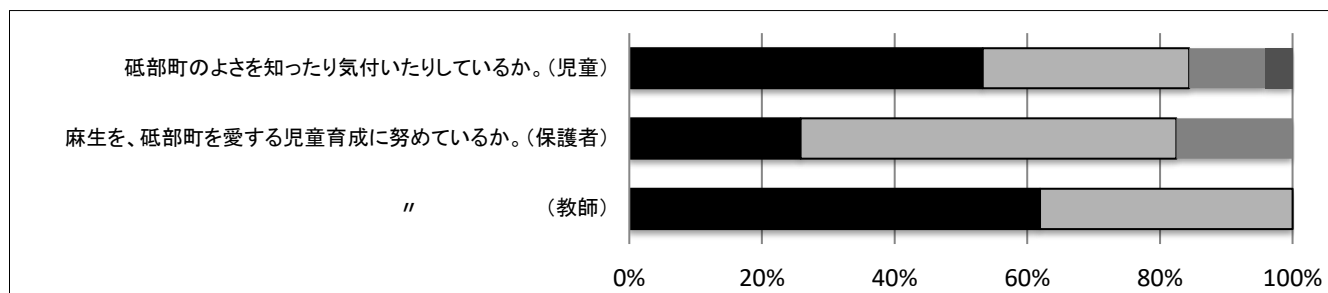
6年生の水泳や陸上練習、大会についても様々な御意見をいただいております。水泳や陸上運動は児童の運動の機会を確保することにつながり、児童にとって良い影響も必ずあると考えています。大会の実施や参加の形式についてはコロナ禍を経て、新しい形で実施している部分もあります。

「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣は、規則正しい生活習慣を身に付ける上で重要ですし、一日の生活のリズムをつくり出す上でも大切なものです。しかし、ゲームやインターネットに没頭して、就寝時刻が遅くなっている児童がいるという傾向が年々見られるようになってきました。各家庭の生活様式も多様化しており、保護者が気に掛けていてもなかなか児童に伝わっていない現状もうかがえます。また、文部科学省の調査によると、「朝食を毎日食べている」「毎日同じくらいの時刻に寝ている」児童ほど、学力調査の得点が高い傾向があることが分かりました。本校では昨年度より、毎月「すこやかウィーク」を設定し、具体的な目標を掲げて達成状況の見取り・声掛けを行い、児童が正しい生活リズムを意識して生活することができるよう努めています。

今後も、保護者と一体となり、元気な麻生っ子を育てていきたいと考えております

<麻生を、砥部町を愛する子どもの育成に関すること>

設問 16 肯定度／児童 84%、保護者 83%、教師 100%



考察

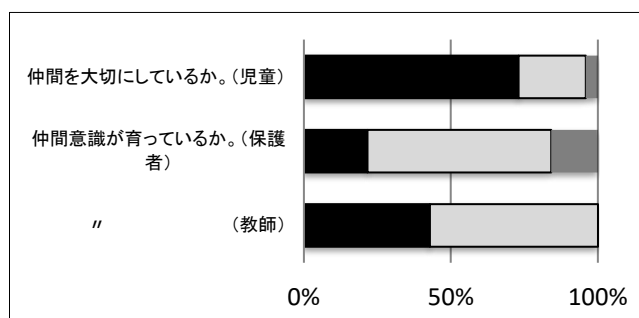
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が導入され、より地域と連携を深めた活動を実践することができました。とべ動物園など、校区の様々な施設に校外学習へ出掛けたり、校区に住む地域の方をゲストティーチャーとして招き、学習会を開いたりしました。児童の肯定度は昨年と同程度ではありますが、児童自身が関わってくださった地域の方に自分から声を掛けるなど、以前よりも地域に親しみを感じている姿がよく見られます。今後は、学校・地域連携カリキュラムの修正を行い、麻生を、砥部を愛する児童の育成にさらに努めていきます。

学校運営協議会委員の所見

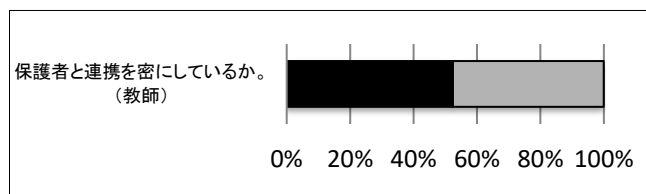
- 3年生のとべ動物園での活動では、地域の団体にも多く声を掛けることでその方たちにとっても関わりをもてるよい機会となった。互いに誘い合うことで地域の助け合いの輪が広がっていく。
- 調理実習では、少しの手伝いのみだったので、もっとできることをお手伝いさせてほしい。
- 物作りを通して子どもたちと交流を図れた。家庭でも話をする機会となつてほしい。

<生徒指導の充実に関すること>

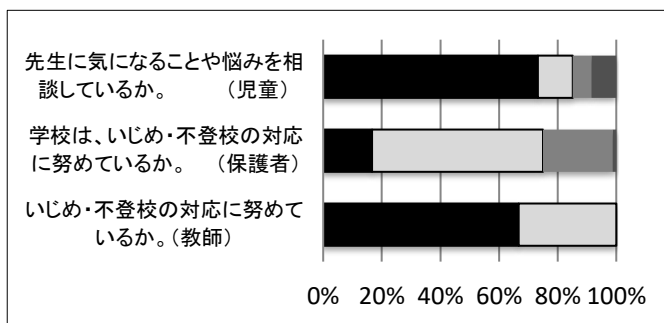
設問 17 肯定度／児童 96%、保護者 84%、教師 100%



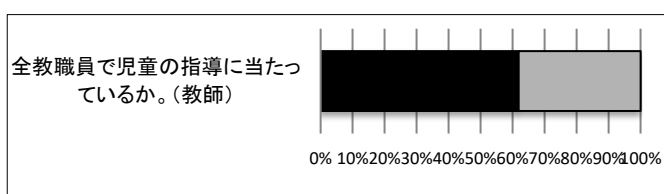
設問 18-2 肯定度／教師 100%



設問 18-1 肯定度／児童 85%、保護者 75%、教師 100%



設問 18-3 肯定度／教師 100%



考察

いじめの早期発見や未然防止の観点から、各学期に「心のアンケート」を実施し、児童の心配事や気になること、困っていることの状態把握に努めています。また、昨年度と同様、児童の様子をより知るために、毎月「心の健康観察カード」を記入させ、自分のことだけでなく心配な友達についても書かせるようにし、多面的に学級または学年の情報を集めるようにしています。さらに、児童が記述した内容を基に、教育相談を実施しております。

人権委員会では、個性を認め合い、助け合ったり支え合ったりするなど、仲間意識を育てるための取組を行

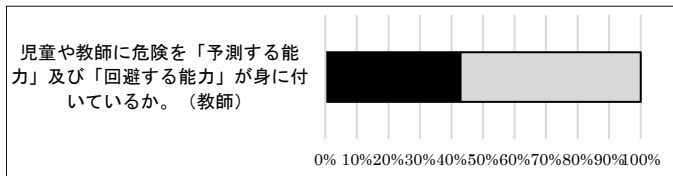
っています。一つ目は、毎月「スマイルワード」を設定し、校内で互いに励ましたり、感謝したりする言葉を伝え合う機会を多く持てるようにしています。二つ目は、人権集会において、人権委員会による劇を通して友だちについて考える機会を持ちました。

学校の取組としては、年度当初、生活目標や校内・校外生活等について全教職員で見直し、共通理解を図って指導に当たることができるようにしました。その見直した「いじめ防止基本方針」は、ホームページでも公開しております。一度御覧いただけたらと思います。また、毎月1回、生徒指導部会を開き、児童の様子について情報交換をし、各学年が抱えている問題の対応策を検討しています。児童の様子を交換したり、前年度の様子を話し合ったりして、いじめ等の未然防止に努めたり、児童理解を図ったりして、今後の対応に生かしています。

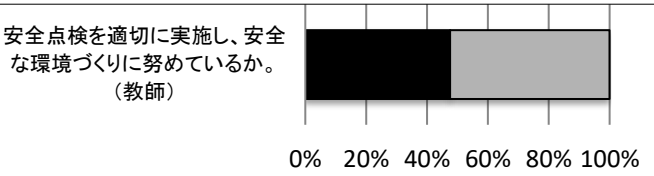
さらに、いじめの問題に関しては、初期対応が非常に大切です。初期対応を丁寧にするには、相談しやすい雰囲気づくりにもつながってきます。保護者が相談したけど学校からの報告がない、報告がないと対応してもらえたのか分からない、となると保護者や児童が相談しやすいと思う雰囲気は生まれてきません。そのため、これまでも初期対応の大切さは全教職員で共通理解し取り組んできました。信頼される学校を目指し、児童、保護者とよりよいコミュニケーションを図っていきたくと考えています。そして、相談しやすい雰囲気のある「チーム麻生」を目指して頑張っていきたいと思っています。

<安全・安心な学校づくりの推進に関すること>

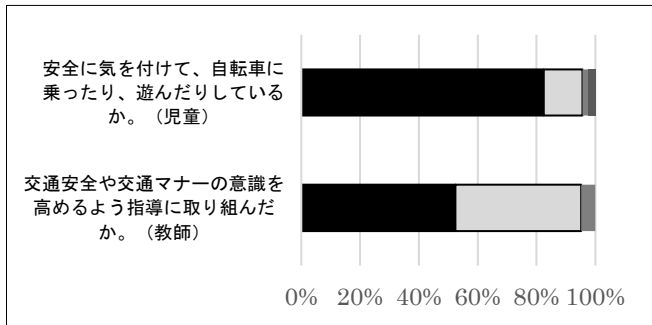
設問 19 肯定度／教師 100%



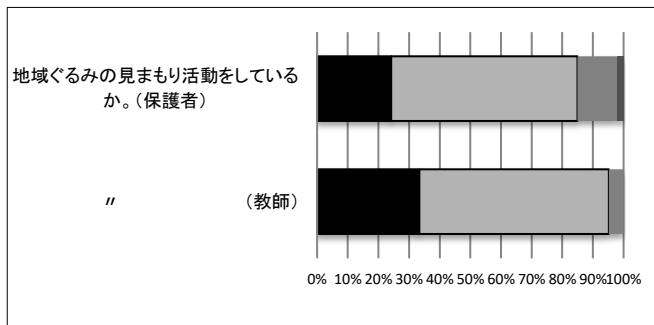
設問 20 肯定度／教師 100%



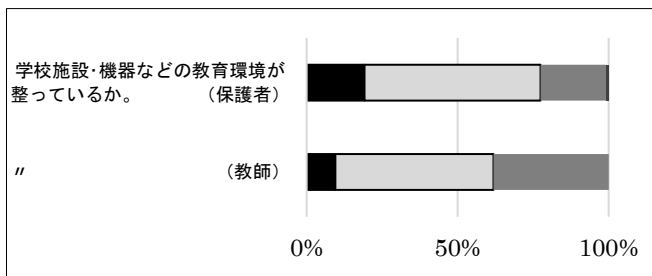
設問 21 肯定度／児童 96%、教師 95%



設問 22 肯定度／保護者 85%、教師 95%



設問 23 肯定度／保護者 78%、教師 62%



考察

地域での交通安全・交通ルールを守ることに、ほとんどの児童が守られています。しかし、交通ルールが守られていない児童も若干名いるのが現状です。特に、自転車に乗るときのヘルメットの着用率はあまり高くありません。そのため、学校では、毎月1回、「交通安全ビデオ」をテレビ放送し、自転車の乗り方や地域での交通ルールを守ることなどの指導を継続して行っています。また、麻生校区の児童は、中学生になると全員が自転車通学になります。低学年のときから、地域での交通ルールにはどのようなことがあるのか、どのように守ればよいかなどを教えることが非常に大切です。今後も、継続して指導を行っていきます。

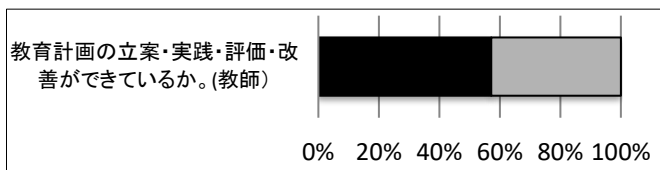
また、見まもり活動に関してですが、教職員は、毎月1回に登校指導をしております。しかし、教職員だけでは、全ての危険箇所の見まもりができていないとは言えません。地域の方が進んで行ってくださっている場所もあります。今年度から、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が導入されました。これは、学校と

地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みです。見まもり活動については、この仕組みを利用して、今後も地域への協力を依頼していくつもりです。学校だけでなく、地域にも呼び掛けを行い、安全に登下校ができるようにしていきたいと考えています。

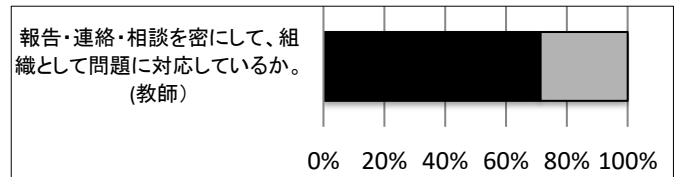
校内の施設・設備については、安心・安全を第一に考えるとともに、できるだけ快適な学びの環境を整えるように努めています。教職員や児童の複数の目で確認し、不備を発見したら、迅速に修繕や使用禁止などの対応をしています。今年度は、保護者の方がお気づきの点を御示唆いただき、対応したことで、より安心・安全な学びの環境を整えることができました。本当にありがとうございました。

<校内組織運営の充実・事務管理に関すること>

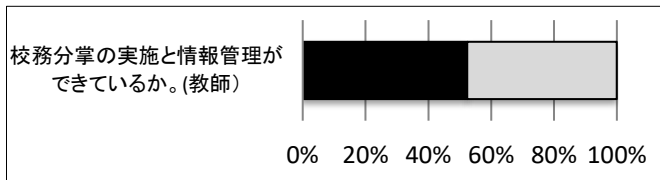
設問 24 肯定度／教師 100%



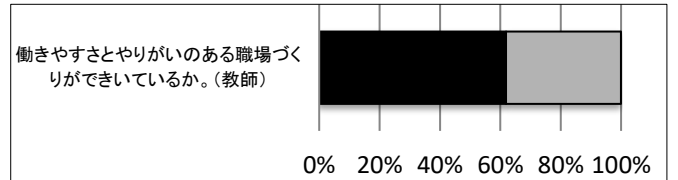
設問 25 肯定度／教師 100%



設問 26 肯定度／教師 100%



設問 27 肯定度／教師 100%



考察

学校の教育目標の具現化に向けた教育計画の立案・実践・評価・改善のために、今年度も教職員アンケートの結果や学校運営の反省を職員会議で共有し、改善策を話し合うことで、全教職員で共通理解を図りました。

児童の様子等については、毎月1回生徒指導部会を開き、情報交換を行っています。また、放課後の職員室では、日々、学年間だけにとどまらず多くの教職員間で報告や連絡、相談が行われており、連携が取りやすい環境づくりができています。

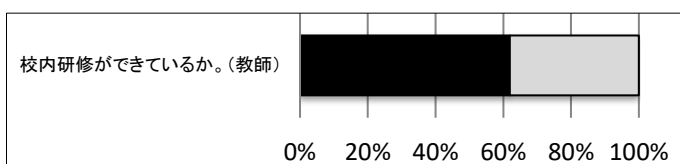
個人情報に記載された家庭環境調査等は、施錠されたキャビネットに保管しています。また、家庭への連絡のため緊急連絡カードを取り出す際には管理職に声を掛けるなどし、取扱には十分気を付けるようにしています。今後も個人情報の取扱いには十分留意し、漏えい等が起こらないように努めていきます。

学校運営協議会委員の所見

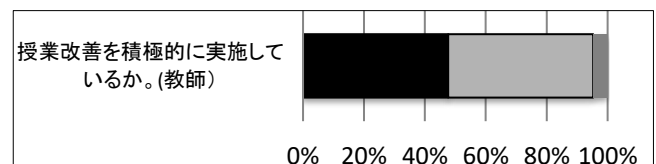
- 働きやすい環境であるようだが、先生方は疲れてないだろうか。健康管理に十分気を付けてほしい。

<教職員の資質・能力の向上に関すること>

設問 28 肯定度／教師 100%



設問 29 肯定度／教師 95%

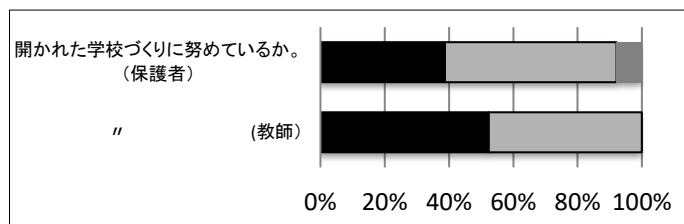


考察

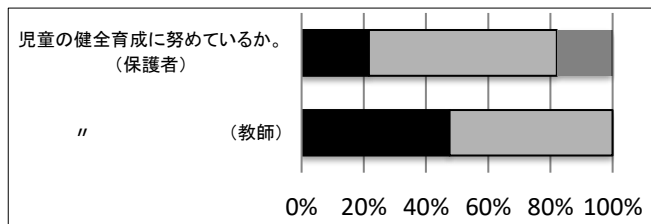
研究主題を「多様なかかわりを通して、豊かな心を育む学びの実現」とし、全教育活動を通して人権・同和教育の研究に取り組みました。教職員の人権意識や指導力を高める研修や人権・同和教育の視点に明確にした授業改善を行いました。また、友達や地域の方々に関わりながら豊かな心を育む教育活動の充実について様々な取組を行いました。研修で学んだことを授業や子どもたちとの関わりに生かし、児童のよりよい成長につながるよう努めています。今後も校内研修を充実させ、研究を深めていきたいと思ひます。

<開かれた特色ある学校づくりの推進に関すること>

設問 30 肯定度／保護者 92%、教師 100%



設問 31 肯定度／保護者 82%、教師 100%



考察

開かれた特色ある学校づくりを目指して、今年度は、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が導入されたこともあり、今まで以上に地域の方も一緒に活動する学習を1学期から積極的に行ってきました。1年生は幼稚園の年長児を招いて「秋ランド」を行いました。2年生は町探検に、見学やインタビュー活動を行って地域の方々と触れ合うことができました。3年生は、とべ動物園マイスターになるため、とべ動物園に見学に行ったり、来園者へ紹介をしたりしました。4年生は、防災士の方とフィールドワークを行って防災マップを作ったり、目の不自由な方との交流会を開いたりしました。5年生は、地域やJAの方々の協力を得て、田植え・稲刈りを体験するとともに、感謝祭を行いました。6年生は、ゲストティーチャーを招き、国際理解に関する学習やキャリア教育の一環として様々な職業の方から働くことについて学ぶ学習を行いました。

また、参観日には、保護者の方には、教室の中に入って参観していただきました。11月の人権・同和参観日には、学校評議委員の方や麻生保育所、幼稚園に案内状を送るなどして、地域の方にも参観していただく機会を設けました。さらに、麻生小恒例の「麻生っ子お楽しみ集会」にも、保護者を招き、児童と一緒に楽しい時間を過ごしていただくこともできました。学校の教育活動や児童の様子については、学校便り、学年通信、保健便り、ホームページ等を通じて逐次、発信しております。

今後も、学校・家庭・地域の連携を図りながら、学校運営に努めていきたいと思っております。更に、今年度も、地域の方や児童館など様々な方面からの御意見をいただき、児童の健全育成に努めてきました。これからも連携を密にし、児童の健全育成に努めてまいります。